■今月の特選句

2015年8月

人たかが一本の管風薫る　小川飩太

大腸検査でモニター画面見ながらの作句か。西瓜を食べすぎての下痢か。発生学的には「管」が人の元祖。吉永小百合さんも。

冷房の風直撃の不幸せ　菅野あたる

移動できない所に着座を強いられる。社長の挨拶の会議室。入社試験の最終面接。これが原因で夏風邪から肺炎になり長引いている。

死後の夢はわが骨製の竹婦人　新島里子

正確に言えば「骨婦人」ですね。それでどなたに抱かせたいのですか。浮気防止のために御主人様にですか。おそらく背筋をぞくぞくのスグレモノ。

網戸してホモサピエンス檻の中　西をさむ

逆転の発想で佳句に。猛獣を放し飼いにして、真ん中に檻を置いてヒトが住む企画も可。檻の隙間から手を出しちゃ駄目ですよ。

拝啓のあとはメロンのことばかり　赤瀬川至安

礼状ならば末尾に「宮崎の完熟マンゴーを食べるのが夢」と書く。送り状ならば、「ご当地の柿が豊作のニュースをテレビで見ました」と。

デザインの想像は自由白水着　栗倉健二

たしかに極彩色では色に惑わされる。デザイン中身ですね。豊満美白、餅肌がいいか。入墨や毛深い人は白水着では透けて見える。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

耳の奥蝉の同居を許しけり　田中早苗
・・・こないだまでは蚊と同居した

冷房を入れよ消せよと旅のバス　有冨洋二
・・・ガムテープもてその口塞げ

誤字一つ掲げて畑のトマト売　久松久子
・・・完熟とせず未熟としたか

浮かばれぬ人の分まで浮いてこい　金澤　健
・・・命令されちや浮ばれんのよ

起立して黙祷を待つ日傘かな　伊藤洋二
・・・次のシーンは日傘をたたみ

青い糸に繋がってゐる恋蛍　久我正明
・・・闇に光の水くきの文字

いけ面の顔もひょっとこ祭笛　髙田敏男
・・・吹くのやめれば戻るいけ面

お中元礼はメールかお葉書か　細川寛子
・・・迷つてる間に秋の声聞く

風入れて息吹き返す徴の家　百千草
・・・遺影のどれも安堵の表情

被れない花いっぱいの山帽子　三橋百笑
・・・白蝶の舞ふのごとくにもかな

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

序の舞を火蛾仕る薪能　宮森　輝
・・・身を焦がすてふ能の演目

あの世へはひとりで逝けと道おしえ　青木輝子
・・・臨死境界までの案内に

ベルトに乗る腹のお披露目クールビズ　壽命秀次
・・・七福神の布袋の仲間

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

【佳作】	暮らし向き詰め込まれてる冷蔵庫	青木輝子
	清水の舞台飛び降り鰻喰う	青木輝子
【佳作】	緑陰の淵で瀬音を聴くは鯉	青山桂一
	雷や大野を裂きて雨で幕	青山桂一
	どの木々も丈いやませり梅雨さなか	青山桂一
	立葵キジデッポウを撃ちをれば	赤瀬川至安
【佳作】	長靴を履き吟行のあぶら照り	赤瀬川至安
【佳作】	おおつぴらドアに札掛け昼寝中	秋月裕子
	お供えの部屋に匂える熟れバナナ	秋月裕子
	芸術は爆発だ政治が暑過ぎる	秋月裕子
	閨の蚊や矢でも槍でもこれへもて	有冨洋二
【佳作】	頬の蚊を打ちては夢の続きをり	有冨洋二
	うなだれた向日葵を見てうなだれる	有吉堅二
【佳作】	サングラス取ればなほさら怖い貌	有吉堅二
	なんといふ暑さだといひ金魚逝く	有吉堅二
	議事堂を唐竹割に稲光り	粟倉健二
【佳作】	太陽もパートタイムや梅雨晴れ間	粟倉健二
	釜の蓋閻魔が開ける極暑かな	飯塚ひろし
	大小の臍が干されし夏の浜	飯塚ひろし
【佳作】	辻斬りに遭ひたるさまに昼寝かな	飯塚ひろし
【佳作】	脳天の回路狂はすかき氷	井口夏子
	たたかへるわざはうっちゃり甲虫	井口夏子
	向こう脛強打の花火爆発す	井口夏子
	電光一閃伝家のごきぶり必殺技	池田亮二
【佳作】	父の日や無理矢理朝寝風呂と酒	池田亮二
	梅雨に入る猫に長靴履かせみる	伊藤浩睦
	禁断の冷やし中華にマヨネーズ	伊藤浩睦
【佳作】	青蛙お前も青色申告か	伊藤浩睦
	つんでれの山の神棲む夏座敷	伊藤洋二
【佳作】	なぜ啼くのプチ憂鬱か鴉の子	伊藤洋二
	ほととぎす村に一軒空家あり	稲沢進一
【佳作】	のうぜんや家は二階建てがよろし	稲沢進一
	雨降らぬ日々よ泰山木の花	稲沢進一
【佳作】	紫陽花に夫婦喧嘩を聞かれけり	井野ひろみ
	捩花やねじれて可憐吾はねじけ	井野ひろみ
	シャネルの香蝿に好かれてしまふとは	上山美穂
【佳作】	ラメ入の水着でもぐる天の川	上山美穂
	ソプラノにアルトの混じりスズメたち	上山美穂

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	輪踊の中の一人は亡者らし	氏家頼一
【佳作】	叩くだけ叩いて買はぬ西瓜かな	氏家頼一
	星一つ我へ流れて上等兵	氏家頼一
【佳作】	鵜綱には逆らえぬまま鵜の潜る	梅岡菊子
	バタフライ光と波に溶けてゐる	梅岡菊子
	世を捨てて気ままなりけり奢我の花	梅岡菊子
【佳作】	尊厳死はた安楽死迷ふ夏	越前春生
	空腹のピアノ鳴りをり原爆忌	越前春生
	草笛を吹く妻の顔他人めく	越前春生
【佳作】	片陰を選んで道は遠くなり	岡野　満
	女子会のジョッキが進む大暑かな	岡野　満
	風鈴に内緒話を聞かれけり	岡野　満
【佳作】	夏至早く過ぎてくれよと願ふ犬	小川鈍太
	織姫の意中の人は実は僕	小川鈍太
	穴子めし羽田の空は昏れかかる	奥脇弘久
【佳作】	若き日の夢膨らませサングラス	奥脇弘久
	凌霄花むかし庄屋と知りたるか	奥脇弘久
【佳作】	経済を出ても赤字よ鰻食ふ	加川すすむ
	蚊の奴め選ぶ権利があると避け	加川すすむ
	俺に似て夜まで待てぬ庭花火	加川すすむ
【佳作】	賓客へ大口あけて蚊遣豚	笠　政人
	さらばへし音をはげます渋団扇	笠　政人
	やつがれの麦わら帽の伊達かぶり	笠　政人
	銀天街浴衣にリュックの娘たち	加藤澄子
【佳作】	ガタガタと揺れ入道雲に入る	加藤澄子
	婚活の文字七夕の笹飾り	加藤澄子
【佳作】	雨の午後指のサインで散髪を	門屋　定
	長い梅雨何時も出来映え駄句ばかり	門屋　定
	梅雨入りも毎月五日は墓参り	門屋　定
	夏の山一盛り売りのブロッコリー	金澤　健
【佳作】	公園に緑蔭人脈ありにけり	金澤　健
【佳作】	短夜や遺影に感謝愚痴一つ	川島智子
	どくだみのこのしぶとさで我生きる	川島智子
	夏帽子目深にかぶり皺かくす	川島智子
【佳作】	パソコンを休ませている昼寝かな	菅野あたる
	濡れタオルのせ心頭をまず冷やす	菅野あたる
	父の日の不幸な父となりにけり	久我正明
【佳作】	丁寧に一本一本髪洗ふ	久我正明
	お化け役どろんと照れて夏芝居	工藤泰子
【佳作】	むらさきの意地を通して式部咲く	工藤泰子
	夏芝居彼の世此の世の楽屋裏	工藤泰子
	帰燕来む若き燕を従えて	小泉花子
【佳作】	ぬめぬめと確かなアリバイなめくじら	小泉花子
	ビー玉を叩けば泡吹くラムネかな	小泉花子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	裁判もせず手虫そつこく死刑	小林英昭
	窓際とだけある風鈴の辞令	小林英昭
	蜘蛛の囲の立地に難のある物件	小林英昭
	夏休みひねもすスマホスマホかな	酒井鹿洋
【佳作】	吾が生涯何度もありしオウンゴール	酒井鹿洋
	梅雨入や晴耕雨読皆スマホ	酒井鹿洋
【佳作】	にんにくを丸裸して吊るし刑	佐藤義子
	無農薬水もしたたるうまキュウリ	佐藤義子
	七夕にわたしゃ金より愛がいい	佐藤義子
	鈴屋の柱掛鈴昼寝覚	佐野萬里子
	藪蚊来て逃れ難かろ箱階段	佐野萬里子
【佳作】	MERS蔓延暑中もマスク放されず	佐野萬里子
	金扇あおいでみれど風は風	下嶋四万歩
【佳作】	神鳴りや静かな声で取り乱し	下嶋四万歩
	蜘蛛の子の餌を落籍せて持て余す	下嶋四万歩
【佳作】	秘め事を聴きどぎまぎす七変化	壽命秀次
	ぼくと子を咽び泣く泣く雨蛙	壽命秀次
【佳作】	五月病あつという間に通り過ぐ	白井道義
	犬猫にそっぽ向かれて梅雨長し	白井道義
	父の日の父の涙に貰ひ泣き	白井道義
	ちっちゃな薬二つに生きろと言われ	鈴木和枝
	ひざが笑うかわいくてかわいくて	鈴木和枝
【佳作】	釦ちぐはぐ元気ならまあいいか	鈴木和枝
	石仏に蚊取線香付けたまま	髙田敏男
【佳作】	梅雨晴れ間洗濯干せば鳥に糞	髙田敏男
	老人の句を詠むの観る浮葉かな	田中　勇
【佳作】	ひとびとの平和の危ぶむ薫風	田中　勇
	ここち良しの曲を聴くや梅雨晴間	田中　勇
【佳作】	雷神の髪振り乱しフォルテシモ	田中早苗
	梅雨晴間布団太鼓はドドンガドン	田中早苗
【佳作】	昼寝覚寝言の名前糾さるる	田村米生
	ソフトクリームあと半分で電話鳴る	田村米生
	腓返り蹴つ飛ばされた竹婦人	田村米生
【佳作】	烏の子親に見習いごみあさり	津田このみ
	じゃんけんに勝って蛍に留まれり	津田このみ
	毛虫取り靴で潰して無慈悲なり	津田このみ
	短夜の夢や地震の長周波	土屋泰山
	解せぬこと下衆の勘ぐり夏至の夜	土屋泰山
【佳作】	睨まれて睨み返してかき氷	土屋泰山
	夏草の茂りに勝てぬ齢かな	飛田正勝
	売り物になる苦瓜に育ちけり	飛田正勝
【佳作】	父の日や父は何処まで行つたやら	飛田正勝

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	チリチリン追い抜いて行く夏帽子	中井　勇
【佳作】	万歩計今日の暑さは千歩計	中井　勇
	動く度背中に汗が貼り付けり	中井　勇
	蝿叩よここまでおいでと蝿が言ふ	新島里子
	わたくしも捻れてゐますねぢればな	新島里子
	烏の子そこのけそこのけ電気が通る	西をさむ
【佳作】	夏場所やどこか象似の逸ノ城	西をさむ
	とりあえずビール甚だ失礼なり	花岡直樹
	二日酔い彦星渡れず天の川	花岡直樹
【佳作】	暑いのは金魚すくわぬ親の方	花岡直樹
	足腹のいよいよしるき更衣	原田　曄
【佳作】	記憶法昼寝さめれば忘れけり	原田　曄
	鯵干物焼いてめでたく誕生日	原田　曄
【佳作】	浮いて来い現世なかなか面白し	ひがし愛
	死ぬまでは生きてゐるなり火蛾の舞	ひがし愛
	閑古鳥てふ店の客巴里祭	ひがし愛
【佳作】	電波の日魚板の横にインターホン	久松久子
	そっけなく団扇で返事してをりぬ	久松久子
	会う人ごとに胡瓜をもらい十三本	日根野聖子
【佳作】	ずぼらともお洒落とも麻服の皺	日根野聖子
	頼る先決めかねてゐる朝顔の蔓	日根野聖子
	猫の鼻千里へとどく饐(すえ)の飯	藤岡蒼樹
	炎天の鰈糊付け干しの張り	藤岡蒼樹
【佳作】	横目見のプール主役の四コース	藤岡蒼樹
【佳作】	海亀や子亀孫亀曾孫亀	藤森荘吉
	夏帽子誰が偉いかすぐ分かる	藤森荘吉
	蝸牛小虫見上げる重戦車	藤森荘吉
【佳作】	新じやがの個性の顔を掘り上げる	藤原セツ子
	五月雨を白蛇のごとく新幹線	藤原セツ子
	太陽に恋ひこがれゐる梅雨の女	藤原セツ子
	列島の万緑が泣く地の怒り	細川岩男
	真夏日やUVカットに厚化粧	細川岩男
【佳作】	半ズボン脛毛頭も涼しけれ	細川岩男
	梅熟す色香で人を魅了さす	細川寛子
【佳作】	月見草転勤転居も華の内	細川寛子
	白百合を咲かせて友は旅立ちぬ	松井寿子
【佳作】	羅をカプリで着こなし日本人	松井寿子
	夕焼の空飛ぶ雲になり鳥になり	松井寿子
	昼寝覚スペースシャトルの中で浮き	松井まさし
	自撮り棒少女噴き出る汗も撮る	松井まさし
【佳作】	いきなりの余白に尺取立ち上がる	松井まさし
【佳作】	ツバメ飛ぶツバメ返しの見本みせ	三橋百笑
	ドクダミの毒に隠されこぼれ球	三橋百笑

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	祭笛足の先より浮かれ出す	宮森　輝
【佳作】	祭笛指がおぼえてゐたりけり	宮森　輝
	とりまきは皆宇宙人ビアガーデン	百千草
【佳作】	父よりも空気読む犬夜盗虫	百千草
	ソーダ水嘘を許せる二人づれ	森岡香代子
【佳作】	蟻の家崩してわかる大所帯	森岡香代子
	CMに阻まれている牡丹灯籠	森岡香代子
	苦手とは知らず氷菓でもてなせり	八木　健
	その針を失くしてしまひ時計草	八木　健
【佳作】	未だ描きをはらぬうちに虹失せる	八木　健
【佳作】	熱帯魚飼主よりも血筋良し	谷澤紀男
	なんとまあ御負けの金魚生きのびる	谷澤紀男
	最終のバスに張り付く灯蛾かな	谷澤紀男
【佳作】	丑三つの家蚊を敵に不寝（ねず）の番	八洲忙閑
	吾のごと草臥れはてて火取虫	八洲忙閑
	朝顔や顔を洗いて朝餉食ぶ	八洲忙閑
【佳作】	財布痩せ舌の肥えたる船料理	柳　紅生
	セクハラもどこ吹く風のビヤガーデン	柳　紅生
	夕立の跡をアイロン奔りけり	柳　紅生
【佳作】	手のシワをカットできぬか夏の夢	柳澤京子
	覗き穴網戸こわして負傷猫	柳澤京子
	ふわり来し庭先一蝶うなる猫	柳澤京子
【佳作】	遠き日の恋の香りや更衣	山下正純
	数を知る大合唱の闇蛙	山下正純
	銀輪やバラ待つ島へ騎行する	山下正純
	孫のいぬババや目高を飼つてゐる	山本けい子
	文字摺草咲ききらずなり梅雨半ば	山本けい子
【佳作】	梅雨晴や足に力を入れて立つ	山本けい子
	引越の家の出入りや夏の雨	山本　賜
【佳作】	傘の人傘ささぬ人夏の雨	山本　賜
	その昔梨大小で蝗捕り	山本　賜
	雑草の名には過ぎたる姫女苑	横山喜三郎
【佳作】	日傘さす勇気のなくて男かな	横山喜三郎
	椶の芽の山の香知らぬ育ちかな	横山喜三郎
	寒日和暖気ぬけてく喫煙所	吉原瑞雲
	なりすまし拒むこの家のバラ垣根	吉原瑞雲
【佳作】	夫婦老ゆ阿吽で生きて昼寝する	吉原瑞雲

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。